

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年03月19日

計画の名称	水源の里の清流を未来へ引き継ぐ水環境づくり（防災・安全）											
計画の期間	平成28年度～平成31年度（4年間）										重点配分対象の該当	
交付対象	真庭市											
計画の目標	計画的な浸水対策および老朽化対策を行い、良好な水環境を未来へつなく。											
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	213	A	213	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H28当初	H29末	H31末
1	下水道による都市浸水対策達成率を0%(H28)から100%(H31)へ増加させる。 下水道による都市浸水対策達成率 浸水対策完了済み面積(ha) / 浸水対策を実施すべき面積(ha)	0%	100%	100%
2	ストックマネジメント計画策定に係る管渠施設の点検実施率を0%(H30)から14%(H31)へ増加させる。 ストックマネジメント計画策定に係る管渠施設の点検調査実施率 点検調査実施済みとなる管渠延長(km) / 幹線管渠延長(km)	0%	0%	14%
3	ストックマネジメント計画策定に係る処理場、ポンプ場の点検実施率を0%(H30)から29%(H31)へ増加させる。 ストックマネジメント計画策定に係る処理場、ポンプ場施設の点検調査実施率 点検調査実施済みとなる施設数(箇所) / 全施設数(箇所)	0%	0%	29%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
下水道事業	A07-001	下水道	一般	真庭市	直接	-	管渠(雨水)	新設	浸水対策事業(久世勝山処理区)	雨水渠 1,200×1,200 L=5.0km	真庭市						130	-	
	A07-002	下水道	一般	真庭市	直接	-	管渠(雨水)	新設	浸水対策事業(久世勝山処理区)	調査・設計等	真庭市						30	-	
	A07-003	下水道	一般	真庭市	直接	-	改築		長寿命化対策事業(久世勝山処理区他)	ストックマネジメント計画策定	真庭市						53	-	
												小計						213	
												合計						213	

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 真庭市 建設部 下水道課が実施	事後評価の実施時期 令和3年3月
	公表の方法 真庭市のホームページにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水対策事業は、平成30年7月に雨水管渠の共用を開始し、浸水対策の効果が発現している。 ・ストックマネジメント計画に係る管渠施設、処理場、ポンプ施設の点検は、予定していた点検が完了したことにより、今後の改築更新計画を効率よく行えるようになった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ストックマネジメント計画に基づく計画的な老朽化対策を行い「良好な水環境を未来へつなぐ」を目指し事業を推進していく。 	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	浸水対策完了済み面積（ha） / 浸水対策を実施すべき面積（ha）	
	最終目標値	100%
	最終実績値	100%
2	点検調査実施済みとなる管渠延長（km） / 幹線管渠延長（km）	
	最終目標値	14%
	最終実績値	9%
3	点検調査実施済みとなる施設数（箇所） / 全施設数（箇所）	
	最終目標値	29%
	最終実績値	100%

当初、腐食の恐れのある管渠の延長を5,000mと見込んでいたが、管渠の経過年数、材質等を精査した結果、点検対象となる管渠延長が3,411mであり、当初よりも少なかったため。

施設の更新時期が近く、全施設の点検調査を前倒しで実施したため。